

## ＜ 改善報告書検討結果（日本女子大学） ＞

### [1] 概評

2005（平成17）年度の本協会による相互評価に際し、問題点の指摘に関する助言として20項目、勧告として3項目の改善報告を求めた。今回提出された改善報告書からは、貴大学が、これらの助言・勧告を真摯に受け止め、意欲的に改善に取り組んでいることが確認できる。また、多くの項目についてその成果も満足すべきものである。

ただし、改善報告書によると、学生の受け入れに関する改善が十分に進んでいない。勧告事項の対象となった3学部のうち、人間社会学部では、収容定員に対する在籍学生数比率が1.31であり、評価当時（1.30）と比して改善されていない。文学部、家政学部においては改善が進んでいるものの、なお適正範囲を超えているので、引き続き定員管理に努める必要がある。また、助言となっていた理学部における過去5年間の入学定員に対する入学者数比率が1.20から1.25とさらに高くなり、現在の収容定員に対する在籍学生数比率は1.30にまで上がっているため、今後は十分に注意されたい。

### [2] 今後の改善経過について再度報告を求める事項

- 1 「学生の受け入れ」について、人間社会学部における収容定員に対する在籍学生数比率が1.31と依然として高いので、次回大学評価申請時に再度報告されたい。